

## [研修会②] 2022年6月22日(水) 10時30分～11時40分



高里鈴代氏

- ・「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」共同代表
- ・「強姦救援センター・沖縄」代表他
- ・日本基督教団西原教会員

### 沈黙を強いる暴力に抗して生きる

#### I すべての生を受けた者の平等の価値。わたしも、あなたも等しく尊い。

「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」ヨハネによる福音書 3章 16節

#### 1、ロシアのウクライナ侵略・武力紛争の中で、平和・安心・安全が破壊されている

- 多くの市民、子ども、高齢者、若者たちが恐怖と死に追いやられている。その状況をテレビで見る私たち。
- 77年前の沖縄戦につながる。  
戦争孤児が沢山生まれた。集団自決が起こった。紛争下の性暴力。  
戦場に若者を送り出した。—キリスト教学院大学創設者—仲里朝章牧師

#### 2、戦後77年—沖縄復帰50年目の中で、なぜ、新たな軍事基地の建設が続くのか

- 戦後 1952年4月28日 講和条約締結—日本の独立と沖縄の米軍占領下へ。  
天皇メッセージ(1947年9月)
  - ・ 米国による琉球諸島の軍事占領の継続を望む。
  - ・ 日本の主権を残し長期租借で、20年乃至50年支配してもよい”
  - ・ 米国と日本の二国間条約。
- 1972年施政権返還。しかし、沖縄は変わらず“米軍基地の島”

#### 3、戦場と性暴力—米軍占領下における女性の身体の収奪 “新たな戦争”

- 米軍の上陸直後から朝鮮戦争までは —「沖縄・米兵による女性への性犯罪」年表
  - ・ 上陸直後から銃やナイフで脅し強姦する。
  - ・ 2人～6人の集団で襲う。その場での強姦や、拉致して基地内の他の兵士集団による強姦。
  - ・ 助けようとする家族、警察官などが殺害、重傷を負っている。

- ・収容所、野戦病院、畑、道路、井戸、基地内、家族の面前から拉致など、あらゆる場所で。
- ・強姦致死傷、赤ちゃんを負った女性が拉致され、強姦、殺害されるなどの残虐さ。
- ・被害者は9ヶ月の乳児（1949.9）、6歳（1955.9）9歳（同）を含めあらゆる年齢に。
- ・強姦の結果の出産は多数におよぶ。・加害者はほとんど不処罰である。

➤ 絞殺される女性たち「沖縄・米兵による女性への性犯罪」12版より

		事 件	処罰の方法
1965	1	28歳ホステス、自宅で殺害される。3米兵が容疑者として取り調べられる。	不明
1966		31歳のホステス、米兵に強姦、殺害され全裸死体が下水溝で発見される（金武村）	脱走兵、逮捕後、不明
1967	1	32歳ホステスが18歳の海兵隊員に絞殺、全裸で発見される（金武村）	重労働 35年の判決
	4	34歳のホステス米兵に強姦、絞殺される（コザ市）	不明
	4	ホステスが間借り先で米兵にナイフで刺され死亡する（コザ市）	不明
	11	20歳ホステス、自宅で就寝中に米兵にハンマーで頭を殴られ死亡（金武村）	迷宮入り
1968	3	牧港補給基地勤務のメイド、米軍将校女子寮の風呂場で絞殺される（浦添村）	迷宮入り
	5	52歳女性、自宅前路上でミサイル基地所属上等兵に強姦、殺害される（読谷村）	沖縄警察捜査。終身刑
	5	45歳の女性が帰宅途中、海岸で米兵に強姦、殺害される（読谷村）	逮捕後不明
	6	23歳のホステス、海兵隊MPに強姦される。短銃で殴られ、重体（宜野座村）	訴えず。
1969	2	21歳ホステス、砲兵連隊所属二等兵に絞殺、全裸死体で発見される。（コザ市）	逮捕後不明
	2	19歳女性、間借自室で、牧港補給基地所属米二等兵に絞殺される（コザ市）	不明
	2	20歳の女性、第15歩兵隊所属の米兵に絞殺される（コザ市）	CID 検挙。刑は不明。
	3	20歳ホステス死体で発見される。司法解剖結果米兵の犯行と断定（那覇市）	迷宮入り
	11	25歳の女性、路上で米兵に強姦される。抵抗しナイフで傷つけられる。	俸給2ヶ月の罰金
1970	5	女子高校生、軍曹に襲われ、腹部、頭などメッタ刺しにされる。強姦未遂。	懲役3年重労働、降等
1971	4	23歳のホステスの全裸死体が墓地で見つかる。海兵隊伍長を逮捕。（宜野湾市）	証拠不十分で無罪
	5	41歳の女性が18歳海兵隊二等兵にドライバーで刺殺される。指紋体液の血液型などの証拠で逮捕（金武村）	不明。本人は否認。
1972	4	25歳のラウンジ経営の女性、米陸軍軍曹に殺害され排水溝に捨てられる（沖縄市）	懲役18年
	8	37歳のホステス、米陸軍スケラン特別隊補給大隊所属の19歳二等兵に強姦、絞殺される（宜野湾市）	無期懲役
	12	22歳のサウナ嬢を、海兵隊二等兵が強姦、シミーズのひもで絞殺（コザ市）	無期懲役

#### 4、 コロナの世界的な感染拡大による新たな社会の変容

- 貧困の拡大と深刻化、バイト縮小で収入減、在日外国人たちの苦境。
- 隔離と分断が深まり、礼拝の維持も困難になり、交わりが制限される。

## II 平和を願うー

「戦争と平和」というトルストイの有名な小説がある。

「平和」の反語は戦争だけか。平和・いのちの反語は「暴力」ではないか。

## 1、暴力に抗して声を上げる 社会の秩序の維持のために、沈黙を強いる

差別、支配、排除、偏見、いじめを見て見ぬふりする社会は平和な社会ではない。

慣習の中の差別、暴力はないか。

長血を患った女、18年間も腰の曲がった女は群衆に紛れてイエスに見いだされる。

## 2、社会の矛盾に声をあげる—沈黙の共謀に身を置かないように

平和を作り出すとは、今までの“平和”“調和”“秩序”と思われていたものを崩してゆくことではないか。今ある“平和”は誰にとっての平和だろうか。権力者のための平和ではないのか。富んだ人のための平和ではないのか。健常者を基準にした平和ではないのか。男性の為の平和ではないのか。もし、そうであるなら、今ある“平和”“調和”、“秩序”の維持ではなく、それを崩してゆくことが、本当の平和を作り出すことではないか。

一方にとっての“平和”が、他方にとっては“暴力”であることを認識したい。

## 3、教会にも「沈黙の共謀」はないだろうか

森田ゆり氏の著書「子どもの性的虐待」で「沈黙の共謀」とは、『誰にも言うなよ』と加害者が強いる沈黙、被害者が 守ろうとする沈黙、そして、被害者が語れない環境を温存している社会全体が培養する沈黙」と説明している。

## 4 キリスト者としての私の使命と受け止めていること

- 沈黙を強いられた者たちの支援と回復。
- 米軍駐留における性暴力 「戦後米軍による女性に対する暴力」年表作成。
- 慰安婦問題、戦後から現在までの沈黙している暴力を明らかにする
- 「強姦救援センター・沖縄」「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」

## 5、沈黙を破り、声を上げた女性を憶えたい そして、孤立させてはならない

- 富田由美さん—高校 2 年生の時、3 人の米兵に性暴力被害を受け、誰にも相談できず、20 年後の 2005 年、10 才の少女が米兵による性暴力を受けた時、知事に対して公開の手紙を送り、基地の撤去を求めた。この公開書簡は、国会の外務委員会でも取り上げられた。
- 新城正子さん。四才で辻に身売りされてジュリ（尾類）となり、戦争中は日本軍の慰安婦を強いられた。戦後は米軍基地の食堂で働いて得た収入で、米兵相手の仕事を強いるアンマーに借金を返済する。「私はついに自由の身になった。重い鎖に繋がれた状態から解放されたような、その時の私の気持ちは、恐らく誰にも分からないだろう。ついに束縛から解放された。」。結婚して渡米し、教会の絵画教室からプロの画家となった。
- 金学順さん。1991 年 8 月 14 日に日本軍慰安婦であったことを初めて自ら名乗りを上げた。「私は金学順（当時 67 才）です。最近新聞をみると、私のような人間がこうして生きているのに、罰当たり連中が嘘ばかりついていて、とうてい我慢できないんですよ。それに私には夫もいないし、子どももいない。独り身だからためらう理由もない。この苦しい世を神様が今日まで私を生かして下さったのは、このためだと思うから、私は云いたい事を云わせてもらう」と言った。